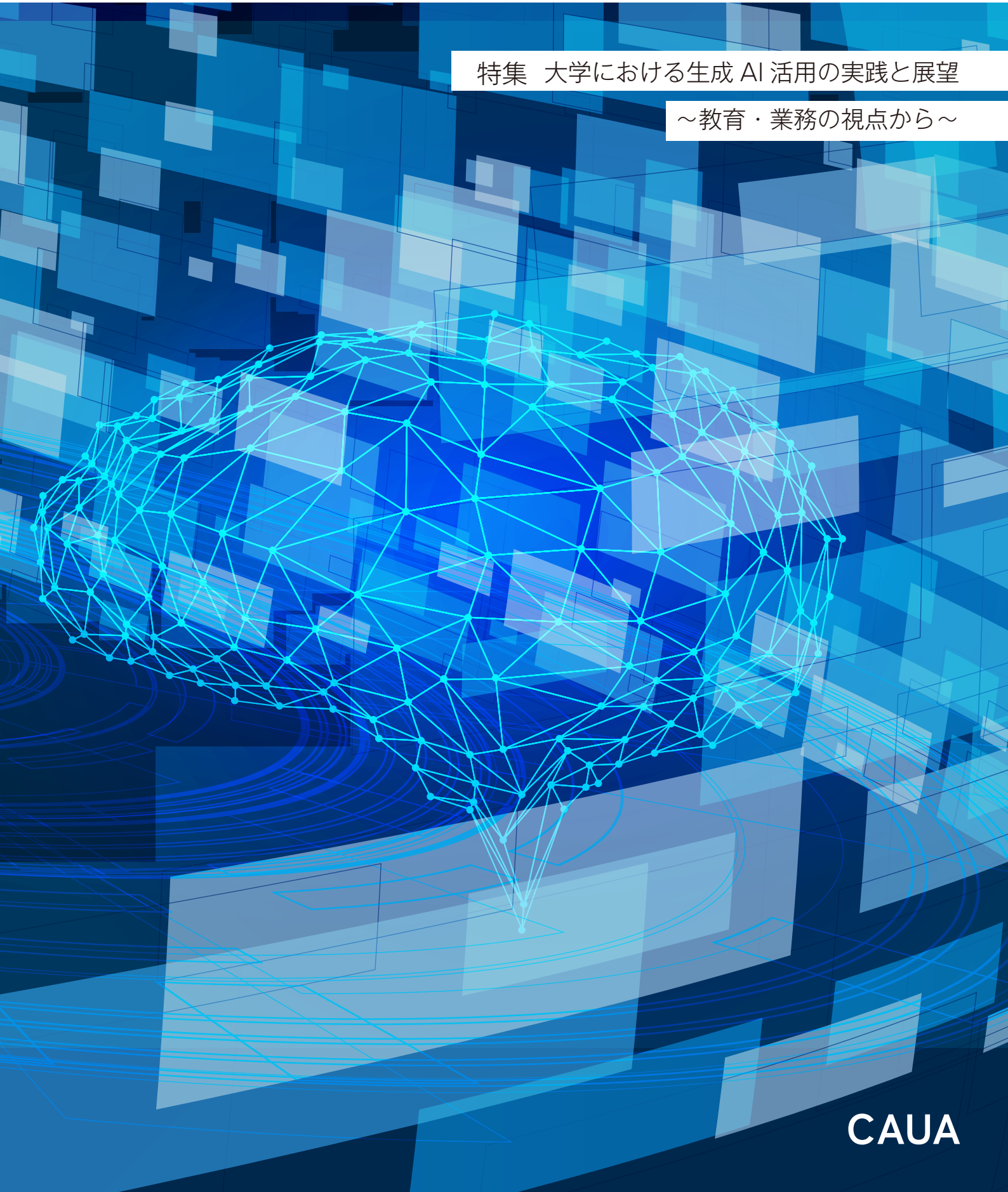
View Point

教育研究に関わるICT利活用、ICT人材育成を目指して

CAUA会誌
第26号
2026.3

特集　大学における生成 AI 活用の実践と展望

～教育・業務の視点から～



CAUA

巻頭言

DX 時代の生成 AI との向き合い方

広島大学　副学長（情報担当）／教授
CAUA 会長
西村 浩二

デジタルトランスフォーメーション（DX）は、2000 年代に社会や価値観を変える概念として語られ始め、2010 年代には経済や制度の具体的課題として認識されるようになりました。日本では、2018 年の経済産業省「DX レポート」で、具体的な数値をもって突きつけられた「2025 年の崖」により、DX は「やると良いこと」ではなく、「やらなければ社会的損失を生む課題」と位置づけられました。さらに 2020 年からのコロナ禍は、紙や対面を前提とした制度の限界を明確にし、DX を社会全体の課題として加速させました。

大学においても、教育・研究・運営を横断する大学 DX が本格化する中で、2022 年 11 月の ChatGPT 公開以降、生成 AI はその取組みを加速させる触媒として急速に浸透しています。教育では学修支援や課題設計の再構築が進み、研究では文献探索やデータ分析を通じた発見性の向上、運営では文書作成や FAQ 対応など、即効性の高い業務効率化が広がっています。

一方で、生成 AI の活用が進むほど、課題もより具体的な形で浮かび上がってきました。個人情報や機密情報の入力リスク、出力に内在するハルシネーションの問題、成果物のみに依存した評価の限界に加え、生成 AI の出力を過度に信頼し、疑いなく受け入れてしまう認知的なリスクも指摘されています。その結果、本来人が担うべき思考や判断のプロセスが外部化され、気づかないうちに思考力や批判的、検討力が損なわれていく、「認知負債」と呼ばれる影響も懸念されます。

これらへの対応には、技術的な対策だけでなく、教育設計や研究倫理、評価方法の見直しを含む組織的な取り組みが不可欠です。大学 DX とは、ツールを導入することではなく、教職員一人ひとりの判断と実践を更新していく営みだからです。

生成 AI が日常のツールとして定着した現在、私たちは「禁止や制限」によるリスク回避から、利用を前提とした設計と責任ある活用へと発想を転換する局面にあります。生成 AI を「使うか否か」ではなく、「使うことを前提に、いかに問い直すか」。本誌が、生成 AI を前提とした時代において、私たちが何を問い直すべきかを考える契機となれば幸いです。

目次

巻頭言

／広島大学、CAUA 会長　西村 浩二

特集

大学における生成 AI 活用の実践と展望　～教育・業務の視点から～

全体講評 ---------- 5

／大阪工業大学、CAUA 運営委員　島野 顕継

AI で変わるプログラミング教育の姿 －青森大学の場合 ---------- 6

／青森大学　下條 真司

業務 DX での生成 AI 活用　～クローズド環境下での LLM 試作事例紹介～ ------- 11

／九州工業大学　中村 豊

IT 企業における生成 AI 利活用ガイドライン ---------- 14

／伊藤忠テクノソリューションズ株式会社　村井 武

[パネルディスカッション]

大学における生成 AI 活用の実践と展望 ---------- 19

寄稿

仮想 OS 環境配布システムの開発 ---------- 22

／大阪工業大学　迫田 波都，杉本 翔希，島野 顕継

2025 年度 CAUA 活動報告 ---------- 33

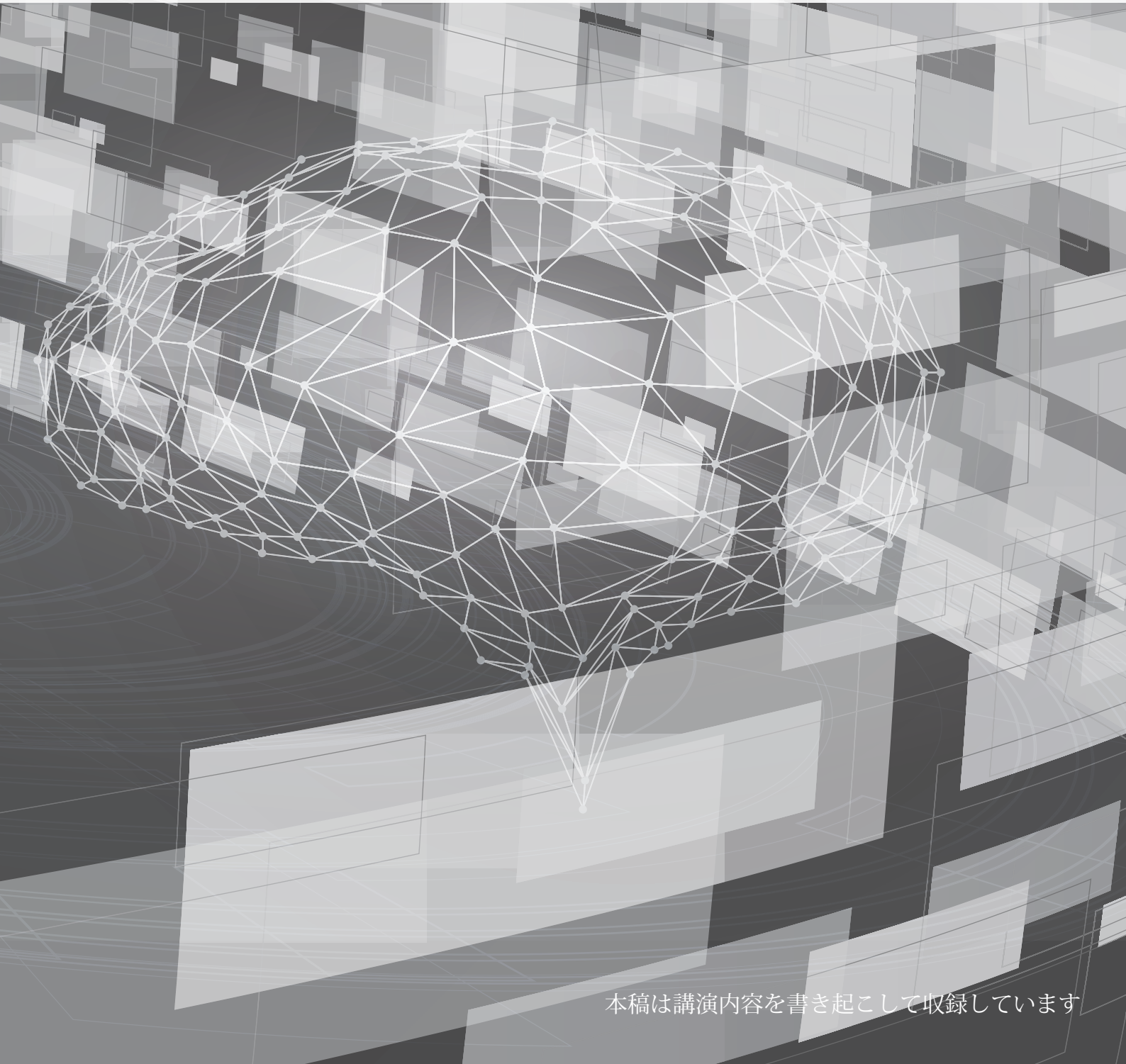
／CAUA 事務局

特集

CAUA シンポジウム 2025

大学における生成AI活用の実践と展望

～教育・業務の視点から～



本稿は講演内容を書き起こして収録しています

イベント概要

● **イベントタイトル**

CAUA シンポジウム 2025
「大学における生成 AI 活用の実践と展望　～教育・業務の視点から～」

● **概　要**

大学における生成 AI 活用は喫緊の課題であり、教育・研究・業務など多岐にわたることに加え、それぞれでの生成 AI との向き合い方も異なります。

本セミナーでは、教育や業務における生成 AI を活用した大学 DX の推進の事例とともに、企業での生成 AI 活用とそのガイドラインをご紹介します。大学での生成 AI の現状や課題、今後の展望を共有し、情報基盤の視点も交えながら、より良い DX 推進のあり方を探ることを目的としています。関係者の皆様が生成 AI 活用を推進する際の一助となることを期待しています。

● **開催事項**

【開　催　日】2025 年 11 月 14 日（金）
【開 催 方 法】会場：伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 大阪オフィス、オンライン同時開催
【プログラム】

時間	内容	講演タイトル・講演者
14:00-14:10	オープニング	西村 浩二氏（広島大学 副学長（情報担当）／財務・総務室情報部長、CAUA 会長）
14:10-15:00	講演	「AI で変わるプログラミング教育の姿－青森大学の場合」 下條 真司氏（青森大学 ソフトウェア情報学部 教授）
15:00-15:40	講演	「業務 DX での生成 AI 活用 ～クローズド環境下での LLM 試作事例紹介～」 中村 豊氏 （九州工業大学 副学長（情報統括本部担当）情報基盤センター長、CAUA 運営委員）
15:40-16:10	講演	「IT 企業における生成 AI 利活用ガイドライン」 村井 武氏 （伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 IT セキュリティ統括部 リードスペシャリスト）
16:25-17:15	パネルディスカッション	「大学における生成 AI 活用の実践と展望」 ・コーディネータ 島野 顕継氏（大阪工業大学 情報科学部 准教授、CAUA 運営委員） ・パネリスト （五十音順） 下條 真司氏（青森大学 ソフトウェア情報学部 教授） 中村 豊氏（九州工業大学 副学長（情報統括本部担当）情報基盤センター長、CAUA 運営委員） 村井 武氏（伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 IT セキュリティ統括部 リードスペシャリスト）
17:15-17:20	クロージング	小野 成志氏（NPO 法人コンソーシアム TIES 副理事長、CAUA 監事）

注 1：所属・役職は講演当時のものを掲載しております
注 2：敬称は省略させていただきました

CAUA シンポジウム 2025
「大学における生成 AI 活用の実践と展望
～教育・業務の視点から～」
全体講評

島野　顕継
大阪工業大学 情報科学部 准教授、CAUA 運営委員
（パネルディスカッションコーディネータ）

2025年度のCAUAシンポジウムは「大学における生成AI活用の実践と展望～教育・業務の視点から～」というテーマで開催されました。

まず3名の講演者の皆様に、教育、事務的業務、IT企業における生成AI利用ガイドラインという観点でお話をいただきました。

各講演を受けて、パネルディスカッションでは大学の役割を「教育」「研究」「事務的業務」とした場合、生成AI利用時に各役割において特に配慮を要すると考えるポイントは何であるかに注目して構成を考えました。生成AI利用ポリシーを策定しようとすると、この3つは同じポリシーで運用するには無理があります。たとえば研究では教育より緩いポリシーにしないと研究活動に支障があるかもしれませんし、事務的業務では教育、研究とは大幅に異なるポリシーになることが考えられます。

利用ポリシーを公開している国内外の一部の大学について事前に調査をしたところ、多くは学生向けの生成AI利用時の注意で、しかも最低限の記述に留まっていました。これはやむを得ないことで、生成AIの進歩に合わせてポリシーを継続的に改訂する必要があるためです。

シンポジウムの内容が、各大学様で「どのような利用ポリシーを設けるか」を考える際に少しでもお役に立てれば幸いです。

余談

パネルディスカッション内では「利用ポリシー自体をAIに生成させる」という趣旨のご発言があるかもしれないと思っておりましたが、意外にもありませんでした。

会員限定コンテンツのご案内

会誌「View Point」PDFの閲覧は会員限定となっております。
この機会にぜひ入会をご検討ください。

●入会申し込み
https://caua.ctc-g.co.jp/regist/

CAUA 事務局

View Point
教育研究に関わるICT利活用、ICT人材育成を目指して